

令和 6 年度事業報告

第 1 事業に関する事項

1 豆類をめぐる諸情勢

(1) 主産地北海道における豆類の生産

北海道での令和 6 年産作付指標面積は小豆 22,100ha、豆類合計（大豆を除く。以下同じ。）28,300ha に設定された。これに対して、小豆の作付面積（農林水産省公表）は 20,800ha（前年比 100ha 減）、金時は 3,750ha（同 180ha 減）、手亡は 1,300ha（同 30ha 増）となった。

令和 6 年産の播種作業は、小豆、金時ともに平年並に終了した。

その後、小豆は、8 月上旬以降の高温により登熟は早まり、平年と比べて草丈はやや長く、葉数は平年並、着さや数は多かった。一部地域では葉落ち不良のため、収穫作業は停滞した。収量・品質は平年並であるが、一部地域では小粒傾向となっている。いんげんは、8 月上中旬の高温により登熟は早まり、平年と比べて草丈は短く、葉数は平年並で着さや数は多かった。収量は平年並～やや少なく、品質は平年並であるが、一部地域で、未成熟さやが多く登熟不良のため、子実の充実不足や着色不良が見られた。

令和 6 年産の収穫状況は、農林水産省統計部「令和 6 年産小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の収穫量」（令和 7 年 3 月 7 日公表）によると、小豆は、10 a 当たり収量は 218kg で前年比 57%増、収穫量は 45,300 トンで前年より 16,200 トン(56%)増加した。

また、金時は、10 a 当たり収量 93kg（前年比 11%増）、収穫量は 3,490 トン(同 6%増)となった。手亡は、10a 当たり収量 122kg（同 11%増）、収穫量は 1,590 トン(同 14%増)となった。

この結果、豆類(小豆、いんげん)合計の収穫量は 50,680 トンで前年より 16,670 トン(49%)増加した。

なお、令和 7 年産の作付指標面積は、小豆は 22,100ha(前年同)、豆類(小豆、いんげん等)合計で 28,790ha(前年比 490ha 増)に設定された。

北海道における豆類の生産状況

(単位：ha、kg/10a、t)

区 分	作付面積			単収		収 穫 量			作付指標面積 (注)	
	5 年	6 年	増減	5 年	6 年	5 年	6 年	増減	6 年	7 年
小 豆	20,900	20,800	△ 100	139	218	29,100	45,300	16,200	22,100	22,100
いんげん等	5,450	5,270	△ 180	90	102	4,910	5,380	470	6,200	6,690
うち金時	3,930	3,750	△ 180	84	93	3,300	3,490	190	-	-
うち手亡	1,270	1,300	30	110	122	1,400	1,590	190	-	-
豆類(小豆、いんげん等)合計	26,350	26,070	△ 280	-	-	34,010	50,680	16,670	28,300	28,790
大 豆	45,300	46,800	1,500	253	283	115,600	132,400	16,800	41,200	41,300
合 計	71,650	72,870	1,220	-	-	149,610	183,080	33,470	72,500	73,090

資料：農林水産省統計部「豆類(乾燥子実)及びそばの収穫量」等による。「金時」には「きたロソソ」を含まない。

(注) 作付指標面積の豆類合計には、えんどうを含む。

(2) 豆類の輸入状況

令和6年度(4月～3月)の雑豆の輸入状況は、小豆 24.1千トン(前年度比 95%)、いんげん 27.0千トン(同 112%)、えんどう 13.1千トン(同 111%)、そら豆 2.8千トン(同 104%)となっている。

中国からの小豆の輸入量は 9.9千トン、前年度と比較して 3%減に対して、カナダからの輸入量は 13.0千トンで、2%減少した。

豆類の輸入量の推移(会計年度)

(単位：トン)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小豆	22,546	23,534	34,336	25,362	24,090
うち中国	8,352	7,417	15,740	10,188	9,911
カナダ	13,690	15,355	15,843	13,241	13,014
いんげん	25,486	25,485	32,997	23,998	26,993
えんどう	18,781	15,189	13,109	11,754	13,050
そら豆	2,905	3,224	3,313	2,719	2,837

(注) 「いんげん」には、ささげ属等その他の豆、ささげ、き豆、竹小豆、その他を含む。

資料：財務省貿易統計

(3) 豆類の価格動向

北海道産小豆の価格は、令和6年6月から9月まで40千円（60kg当たり。以下同じ。）で推移したものの、その後は下落し、37千円で推移している。

輸入小豆の価格は、中国産（天津）、カナダ産ともに令和5年11月に最高値（各々21.0千円、22.2千円）となり、その後やや下落したものの、中国産（天津）は19千円台、カナダ産は21千円台で推移している。

また、バタービーン（ミャンマー）の価格は、令和5年9月以降は上昇傾向で、令和6年10月には17千円となったが、その後下落傾向に転じ、7年3月には14千円台になった。

豆類の価格の推移（東京仲間相場）

（単位：円/60kg）

	R6年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年1月	2月	3月
小豆(国産)	38,000	39,263	40,000	40,000	40,000	40,000	39,864	37,000	37,000	37,000	37,000	37,000
(前年同月)	30,500	30,500	30,500	30,500	30,500	30,500	30,500	32,775	34,500	35,444	36,000	37,700
大正金時(国産)	41,000	41,000	41,000	41,000	41,000	41,000	41,045	42,000	42,000	42,000	42,000	42,000
(前年同月)	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,476	41,000	41,000	41,000	41,000	41,000
輸入小豆(天津)	20,800	20,784	20,395	20,300	20,300	20,447	20,500	20,500	20,216	19,867	19,800	19,800
(前年同月)	19,800	19,500	19,500	19,500	19,500	19,700	20,310	21,000	20,750	20,500	20,768	20,800
輸入小豆(カナダ)	22,062	22,732	22,395	22,300	22,300	22,447	22,500	22,368	21,832	21,167	21,000	21,000
(前年同月)	20,200	20,000	20,000	20,375	20,500	20,975	21,310	22,170	21,950	21,556	21,768	21,800
バタービーン(ミャンマー)	15,310	15,489	15,195	15,509	16,000	16,621	17,000	17,000	16,211	15,800	15,153	14,265
(前年同月)	11,800	11,800	11,800	11,800	11,800	12,230	13,457	14,180	14,500	14,917	15,895	16,000

（注）国産は東京深川倉庫前渡し、中間2等(現物)、輸入ものは横浜渡し、一次問屋基準(現物)

2 実施した事業

当協会の事業目的に即して、良品質な国産豆の安定供給に資する豆類に関する学術の振興（公1）及び健康に良い豆についての消費啓発を通じた食育の推進（公2）を実施した。その際、業務の的確かつ効率的な運営に配慮しつつ、協会の助成事業や直轄事業により、以下の各項目に記したとおり実施した。

なお、豆類振興事業に関しては、広く事業や課題を公募し、第三者で構成される審査委員会の選定結果に基づいて、令和7年度末までに、令和7年度豆類振興事業助成対象候補を選定した。

○ 良品質な国産豆の安定供給に資する豆類に関する学術の振興（公1）

〔調査研究〕

1 雑豆需要促進調査研究への助成（公募）

新たな雑豆の需要促進に資するため、大学、試験研究機関等の研究者が実施する、新需要開発及び健康維持・増進の各分野での調査研究として、次の6課題に助成した。

（1）いんげんまめの新規加工食品調製のための研究

愛国学園短期大学 教授 江木伸子

（2）うつ病に対するあずき由来ポリフェノールの作用分析

名寄市立大学 教授 山本達朗

（3）氷菓への小豆煮汁の添加により、食後血糖の上昇に及ぼす影響に関する研究

摂南大学 教授 山田徳広

（4）発酵小豆摂取が食後血糖値上昇に及ぼす影響—発酵小豆のセカンドミール効果について—

三重短期大学 講師 杉野香江

（5）若者にとって和菓子とは—餡を使った菓子の「オノマトペ」を活用したコミュニケーションの検討に向けて—

公立大学法人宮城大学 助教 滝口沙也加

（6）あずきの皮に由来する新規オリゴ糖の探索

静岡県立大学 助教 本田千尋

2 豆類事情調査

国内外において豆類の生産・流通・消費実態に関する調査研究を実施した。

国内関係では、豆類の消費啓発事業の企画に資するデータを得るための定期的な調査（豆類の消費啓発に資するための基礎データ収集調査）を新たに実施するとともに、豆類和菓子の需要の動向と促進に関する調査（菓銘をもつ生菓子の登録無形文化財認定に伴う和菓子の需要促進効果調査）を実施した。

また、雑豆需要促進調査研究のこれまでの成果の普及、事業の認知度向上、参加者間の交流促進を目的に報告会を開催した（対面及びオンライン。参加者は大学・研究機関の研究者・学生、豆類の貿易・流通や実需の企業、生産者・生産者団体、県や国の行政・普及関係者、マスコミ等96名。）。

さらに、北海道の高級菜豆（白花豆）栽培の生産性向上及び省力化技術の実証・調査を実施し、生産者への報告会を行った。

海外関係では、令和7年度にアルゼンチン共和国を対象とした豆類事情調査団を派遣するための現地との連絡調整を行った。

[試験研究]

1 品種改良試験への助成（公募）

豆類の品種改良を促進するため、試験研究8課題に助成し、各機関で実施された。

(1) ダイズシストセンチュウ抵抗性を有する小豆有望系統の育成強化

地方独立行政法人北海道立総合研究機構十勝農業試験場

(2) インゲンマメモザイクウイルス高度抵抗性を持つ大納言小豆の育種母本の作出

京都府農林水産技術センター 生物資源研究センター

(3) リモートセンシング型の収量評価および実需者型の加工適性評価を活用した金時系統の選抜強化

地方独立行政法人北海道立総合研究機構十勝農業試験場

(4) ゲノム育種法を活用した多収およびダイズシストセンチュウ抵抗性金時の開発促進

地方独立行政法人北海道立総合研究機構中央農業試験場

(5) 小豆ゲノム育種基盤の構築による除草剤耐性マーカーの開発

地方独立行政法人北海道立総合研究機構中央農業試験場

(6) 道央地域で安定生産できる中晩生小豆品種の開発強化

地方独立行政法人北海道立総合研究機構中央農業試験場

(7) 小豆コンバイン収穫向け系統における選抜・評価体系の最適化と開発強化

地方独立行政法人北海道立総合研究機構十勝農業試験場

(8) 小豆における食味評価法の確立と温暖化に対応した系統の選抜強化

地方独立行政法人北海道立総合研究機構十勝農業試験場

2 病虫害試験への助成（公募）

豆類の害虫防除対策を確立するため、試験研究1課題に助成し、実施された。

(1) 北海道の小豆におけるマメノメイガ緊急防除対策

地方独立行政法人北海道立総合研究機構道南農業試験場

3 栽培法試験への助成（公募）

豆類の栽培法の改善を図るため、試験研究1課題に助成し、実施された。

(1) 能登大納言小豆における安定多収栽培管理技術の開発と体系化

石川県農林総合研究センター農業試験場

4 開発試験への助成（公募）

豆類の加工、調製過程における新技術を開発するため、試験研究2課題に助成し、各機関で実施された。

(1) 紫色色素の分析を基盤とした、加工特性を向上させた小豆の育種をめざす
開発試験

愛知工業大学

(2) 京都アズキ遺伝資源の類縁関係の解明とミニコアコレクションの開発

京都先端科学大学

5 試験研究の推進

産業界のニーズに対応した新品種開発を短期間で効率的に行うための革新的育種システム構築実証事業及び小豆コンバイン収穫適性品種導入の加速化を図るため、小豆・菜豆のコンバイン収穫に関する効率化実証事業を実施した。

[技術普及事業]

1 技術普及事業への助成（公募）

豆類栽培の優良農家、集団を表彰しその成果を広く紹介する全国豆類経営改

善共励会の開催、作付指標面積に即して良品質豆類の計画的な安定生産を図るための良品質豆類生産安定指導事業等の4事業に助成した。なお、共励会で農林水産大臣賞を受賞した農事組合法人が農林水産祭において内閣総理大臣賞を受賞した。

2 技術普及事業の推進

北海道における豆類生産の安定化のため各種調査や指導を支援した。

また、豆類栽培管理技術の高位平準化と計画的な作付けによる生産の安定化を図るため、農業者及び農業関係者を対象に、豆作り講習会を北海道4地区で開催した。

(豆作り講習会の開催概要)

講習内容：豆類を巡る情勢、実需者からの道産豆類への要望、豆類の計画生産・需給状況、良質豆類の生産技術等に対する説明・講演。

日程等：令和7年2月13日：美幌町、2月14日：士幌町、2月26日：旭川市、
2月27日：美瑛市にて開催。参加者は合計459名。

[豆類生産対策事業]

豆類種子対策事業への助成（公募）

高品質の豆類生産に大きな役割を果たす優良種子の安定生産と普及を図るため、豆類原原種、原種、種子の増殖事業等の3事業に助成するとともに、北海道における豆類新品種の開発普及事業に助成した。

○ 健康に良い豆についての消費啓発を通じた食育の推進（公 2）

【豆類消費啓発事業】

1 豆類消費啓発事業への助成（公募）

豆類・豆類製品・豆料理に関する一般消費者の理解増進、知識啓発等を図るため、豆類関係団体が連携して実施する「豆の日」キャンペーン、主婦等を対象とした「豆！豆！料理コンテスト」（応募総数 1,096 作品）、豆料理教室（全国各地 56 教室で開催）等を行う事業をはじめ、豆類及び豆類製品の生産・流通等に関係する団体がそれぞれの専門性を生かして、豆類・豆類製品に関する講習会、調査、資料配布等を行う 9 事業に助成した。

2 豆類消費啓発事業の推進

（1）豆を使った食育の推進

学校給食における豆料理提供機会の拡大・定着を図るため、栄養教諭・学校栄養職員豆料理講習会（23 都道府県・28 箇所、受講者数 1,117 名）及び児童、父母も参加する親子豆料理教室（43 県・5 箇所、受講者数 242 名）を開催した。

豆類に関する児童の理解促進を図るため、豆を使った食育指導用の学習読本を制作し、全国の小学校、各都道府県学校給食会等 8 千箇所に配布案内を行い、利用希望のあった小学校 886 校に 6.6 万部を配布した。併せて、同資料の効果的利用に資するため、指導者向け解説書 4 千部、食育 DVD2 部、豆標本セット 841 セットを制作・配布した。

また、幼稚園児等を対象に豆を題材として制作した食育絵本として「おつきみだよ！まめエイト」を新たに作成し、「だいすき！まめエイト」、「ありがとう！まめエイト」と併せて延べ 1,188 園に配布するとともに、絵本を題材として制作した紙芝居を利用希望のあった延べ 127 園、豆標本セットを 93 園、金時豆の栽培体験ができる豆栽培セットを 86 園に配布した。

（2）豆類消費啓発資料の制作・配布

食に関する指導者や一般消費者の豆類に関する知識啓発及び理解増進を図るため、豆の種類・特性、豆の健康栄養性、豆の基本的調理法、豆料理レシピ等に関する情報を掲載した各種資料を作成した。

これらの資料を協会ホームページで紹介し、希望に応じて消費者等に配布するとともに、栄養・家政学系大学、栄養・調理専門学校、栄養士会等の食育指導

団体、消費生活センター等の消費者指導啓発機関、豆類関係団体等に配布案内を行い、希望に応じて配布総数 7 万 5 千部を配布した。

（３）豆類消費啓発情報の提供

一般消費者に豆料理、豆の調理法、豆の栄養等に関する情報を伝達するため、栄養・料理専門誌、料理レシピサイト等に広告・記事を合計 5 回出稿した。

また、当協会ホームページ、ユーチューブ、インスタグラムを活用して、豆製品の製造方法、豆食品、豆料理など豆の様々な情報を提供した。

（４）豆類消費啓発イベントの推進

一般消費者の豆類に関する消費啓発及び理解増進を目的として豆類関係団体が制定した「豆の日」（10 月 13 日）や「豆月間」（10 月）の認知向上とその定着を図るため、Tokyo FM の番組及びその番組の特設サイト・公式 SNS を利用して広く周知した。

また、「世界マメの日」（2 月 10 日）を契機として豆類の消費啓発を推進するため、SDGs と食品ロス削減の取組をテーマとする講演及び国内外で生産され流通しているいろいろな豆を用いた多様な豆料理を紹介・試食を行うセミナーを開催した。

【情報資料の提供等】

豆類に関する情報を発信するため、季刊誌「豆類時報」を 4 回発行した。118 号（令和 7 年 3 月）より、加藤淳氏（ホクレン特任技監）による連載企画「あずき博士の豆類歳時記」を開始した。

当協会のホームページについては、一般消費者や豆作り関係者への情報提供の強化のため、豆イベント情報の充実を図るとともに、豆類の消費啓発に資するための基礎データ収集調査結果や豆作り講習会テキストの掲載等を行った。

第2 管理運営に関する事項

1 評議員会、理事会、監事監査

(1) 評議員会

- ① 定時評議員会 令和6年6月20日（木）

場 所：航空会館ビジネスフォーラム 501会議室

出席者：評議員9名、理事3名、監事2名

次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 令和5年度事業報告及び決算の承認について

第2号議案 理事の選任について

- ② 臨時評議員会 令和6年11月5日（火）（書面決議）

決議の省略の方法により次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 評議員1名の選任の件

(2) 理事会

- ① 第1回理事会 令和6年5月20日（月）

場 所：航空会館ビジネスフォーラム 501会議室

出席者：理事9名、監事2名

次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 令和5年度事業報告及び決算の承認について

第2号議案 理事候補者の選定について

第3号議案 令和6年度定時評議員会の開催について

（報告事項）（1）職務の執行状況について

- ② 第2回理事会 令和6年6月20日（木）（書面決議）

決議の省略の方法により次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 理事長（代表理事）等の選定の件

- ③ 第3回理事会 令和6年10月31日（木）

場 所：航空会館ビジネスフォーラム 501会議室

出席者：理事9名、監事2名

次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 令和6年度臨時評議員会（書面決議）の開催について

- (報告事項) (1) 令和6年度上期事業進捗状況及び収支状況について
(2) 職務の執行状況について

④ 第4回理事会 令和7年3月24日(月)

場 所：航空会館ビジネスフォーラム 501会議室

出席者：理事8名、監事2名

次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 令和7年度事業計画及び収支予算について

第2号議案 特定費用準備資金及び特定資産取得・改良資金の保有について

第3号議案 旅費規程の一部変更について

(報告事項) (1) 資産管理運用の見直しについて

(2) 育児・介護休業等に関する規程の一部変更について

(3) 職務の執行状況について

(3) 監事監査 令和6年5月13日(月)

場 所：日土地内幸町ビル2階 (公財) 日本豆類協会会議室

出席者：監事2名

令和5年度の業務の執行及び財務の処理状況について、監事による監査が実施され、いずれも正確かつ適正である旨の監査報告書が提出された。

2 役員等の異動

評議員

① 令和6年10月31日付け 退任

高尾雅之

② 令和6年11月5日付け 選任

金森正幸

③ 令和7年3月1日付け 退任(死亡)

吉田泰弘

理事

① 令和6年6月20日付け 選任

(再任9名)

国分牧衛、小高良彦、斎藤聰、篠原末治、樽井功、内藤豊彦、

夏秋啓子、松尾元、山名律子

② 令和6年6月20日付け 選定

理事長（代表理事）篠原末治

副理事長（業務執行理事）小高良彦

常務理事（業務執行理事）松尾元

事業報告の附属明細書について

令和6年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。